

「いつ終わるんでしょうね」と言っている人は、「いつ前のように戻るんでしょうね」と言っているのです。

これが終わって以前のような生活に戻ることをイメージしています。  
前の生活に戻ることはないのです。

これと似た現象が明治維新の時にもありました。

明治維新が始まって最初の10年間は、「大政奉還で何かしたようだけど、そのうちまた武士の時代に戻るに違いない」と思っていた武士が大勢いました。

彼らを西郷隆盛が率いて西南の役になったのです。

一方で、海外を見てきた連中がいます。

日本は江戸時代の中に、世界の中で260年間、時間が止まっていました。

すぐになんとかしないといけない状況です。

攘夷じょういとか、ちょんまげとか言っている場合ではないのです。

海外に行った連中は、世界の時間が進んでいる間に自分たちの時計が止まっていた

ことに初めて気づきました。

ここで差がつくのです。

今も同じです。

「これが終わったら前のように戻るんじゃないか」と期待している「ちょんまげ」の人がまだいるのです。

前の生活には戻りません。

今の状況を楽しんだ者勝ちです。

やっと遅れを取り戻したのです。

コロナによって、敗者復活のチャンスが来たのです。

敗者復活のチャンスを、活かさないのは、もったいないのです。

政府を頼ろうとしても、政府はまだ「ちょんまげ」です。

保健所は、メールで送ったものを手書きで書き直してファクスで送っていました。

日本は何十年も前から「IT立国」と言いながら、いつの間にか何周遅れの国になっていたのです。